
最後の14日間

sutebia

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最後の14日間

【Nコード】

N8471Y

【作者名】

sutebia

【あらすじ】

自らの死を知っている少女と、その子をただ見つめる男の話。

二年前

・・・私は知っている。

自分の寿命を。

子供の頃から、人の周りに数字の羅列が見えてた。

基本的にお年寄りの人ほど数字が小さくて、私と同年代の子は大きくて。

同年代の子と比べると、私の数字は圧倒的に小さかったけど、何の数字かもわからなかったから気にもしてなかった。

その数字が死までの時間と気付いたのは、おじいちゃんが死んだ時。

0に近づく数字と、だんだん弱っていくおじいちゃん。

0になったらどうなるのか、もうほとんどわかってた。

わかってしまった。

でも認めたくなくて、でもその時間は訪れて。

結局0になった時、予想通りおじいちゃんは私たちとは違う世界に逝ってしまった。

悲しくて泣いた。

ずっと泣いてたと思う。

泣き疲れて、眠って、起きた時、自分の数字に目がいて、そしてまた泣いた。

怖くて泣いた。

ずっと先のことだと思っていた自分の人生の終わりは、もう目の前だった。

残り時間はあと・・・二年。

〱一年前〱

僕が彼女を初めて見かけたのは、病院の屋上だった。

まだ中学生になりたてぐらいの小さな女の子。

屋上のベンチに寄りかかって空を見上げる彼女は、少し綺麗だと思えた。

特に意味はなかった。

そう。

意味もなく、ただなんとなく彼女の隣に座って話しかけてみただけだった。

・・・何見てるの？

彼女はこっちをちらりと見るとまた空を見上げる。

・・・空。

それだけ答えて空を見上げ続ける。

なんだかクールな子だな、なんて思いながら僕も同じように空を見た。

・・・ねえ。

しばらくそのまましていると、彼女から話しかけてきた。

・・・何？

・・・貴方は・・・貴方は、明日死ぬとしたら何をしますか・・・？

彼女の問いに僕は答えを出せず、黙ったまま彼女の方を向く。

彼女も僕の方を見ていた。

目に涙をいっぱい浮かべながら。

僕はまだ知らなかった、あの頃の彼女の残り時間はあと一年。

12月18日 早朝 散歩道。

「はぁー・・・」

肺の中からめいっぱいの白い息を吐き出す。

あまりの寒さに、鼻と耳が赤くなっているというのは容易に想像がつく。

とくに何かするわけでもなく、ただただ歩く。

日課ってほどでもない、たまにする散歩。

始めたころはあった発見も、最近ではいつもの光景になってしまっている。

それでも、散歩するのは好きなのだが。

いつもの道を、いつもの速さで、いつものように歩く。

今日もそんな、いつもの散歩になるはずだった。

何事もなく終わるはずだった。

いつもの散歩じゃなくなったのは、そろそろ帰ろつかと思っていたころ。

少女は橋の上に立っていた。

手摺に手をかけ、覗き込むようにして川を見つめる。

（こんな時間に何してるんだろ？）

多少の疑問は持ったが、別段気にも留めずに、その後ろを通り過ぎようとする。

と、その時、少女がふわりと動いたのが見えた。

そちらの方を見ると、少女は大きく身を乗り出し、落ちそうにしている。

いや、自ら落ちようとしている様にも見えた。

僕は慌てて、少女にしがみつく。

「ちょ・・・おい！やめろって！なにしてんだ！」

少し力を入れて引っ張ると、抵抗もせず簡単に橋の上に戻った。

あまりに抵抗しないので、拍子抜けしてしまう。

「何・・・してたの？」

下を向いてうつむいたままの少女に問いかける。

少女は顔をあげ僕の目を見ると、少し驚いたような顔をしたが、また目を伏せてしまう。

僕が困ったように頭をかくと、少女はその場にぺたんと座りこむ。

「え？どした？大丈夫・・・」

僕が言い終わる前に、少女はころんと倒れる。

というより、寝転ぶが正しいだろうか。

少女は地面から僕の顔を見上げ、小さな声で、だけど力強く僕に問う。

「明日死ぬとしたら・・・何をしますか？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8471y/>

最後の14日間

2011年11月27日16時59分発行